

ムクドリによるスズメの巣への攻撃事例

佐藤重穂^{1*}・佐藤ゆかり^{2*}

1. 森林総合研究所四国支所, 〒780-8077 高知市朝倉西町2-915
2. 〒780-8063 高知市朝倉丙148-2-1-42

ムクドリ *Sturnus cineraceus* とスズメ *Passer montanus* はいずれも日本国内では都市部や都市近郊, 農村部などにごく普通にみられ(斎藤 1997, 佐野 1997), 同一地域に両者が生息することも普通である。

黒田 (1956, 1957) はムクドリ用の巣箱をムクドリが未使用の場合またはムクドリの巣立ち後にスズメが営巣した事例や, スズメが営巣したムクドリ用の巣箱においてムクドリがスズメを追い出して使用する事例を報告し, 両者が営巣場所をめぐるスズメが従の競争関係にあることを指摘している。しかし, ムクドリによるスズメの巣に対する攻撃例はこれ以外にほとんど報告されていない。

筆者らはコシアカツバメ *Hirundo daurica* の古巣に営巣したスズメに対するムクドリによる攻撃をくり返し観察したので報告する。

観察場所と方法

調査地は高知県高知市朝倉で, 高知平野の西端部にあたり, 宅地と水田や畑地が混在する。四国の平野部の住宅地や農村においては, ムクドリとスズメはいずれも留鳥としてごく普通に生息していて, 繁殖する個体数はともに多い(石原 1982, 石川ほか 1995)。

観察地とした場所には, 鉄筋コンクリートの4階建てのアパートが4棟並んでいる。4棟のアパートには1階から4階まで通じる階段室が1棟あたり2または3室ずつ, 合計で10室ある。階段室はアパートの建物内に配置されているが, 踊り場と次の階の踊り場のあいだ, および最上部の踊り場と天井のあいだの1面には外壁がないので, 階段室へ鳥類が自由に侵入できる構造になっている。4棟のアパートのうちの1棟の階段室の1室において, 最上部である4階部分の天井下にコシアカツバメの巣が1つあったが, 1996年春に営巣中のコシアカツバメからスズメが巣を奪い, 入り口部分を短く加工してこの巣で繁殖した。その後, スズメが毎年この巣で繁殖していた。1996年から2001年まで, この巣のスズメによる利用状況と繁殖状況を, 繁殖期である4月から7月まで原則として毎日1回以上, 巣から約5m離れた位置にあるアパート内住宅のドアから確認し, 営巣場所への成鳥の出入り, 巣材運び, 食物運び, 巣内のヒナの声, ヒナの巣立ちなどの行動を記録した。スズメとムクドリの行動に何

2001年11月9日 受理

キーワード: ムクドリ, スズメ, 巣の攻撃, 営巣場所

* 日本野鳥の会高知支部

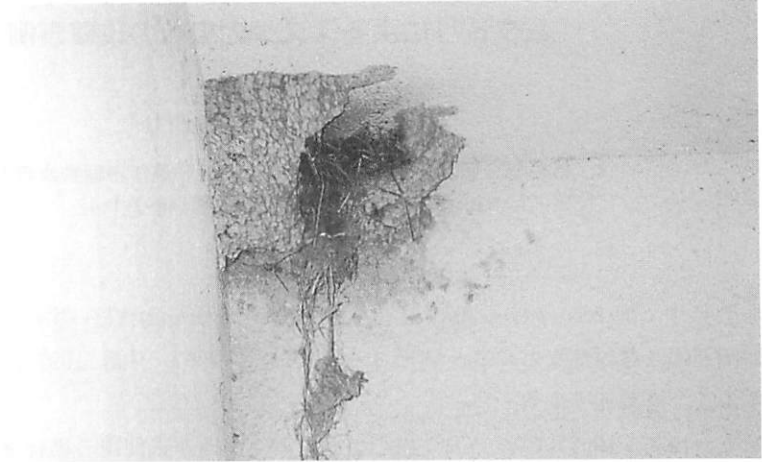


図1. ムクドリによって入り口部分を破壊されたスズメの巣。コシアカツバメの古巣を利用したもの。

Fig. 1. The entrance to a nest of Tree Sparrows that was destroyed by Grey Starlings. The nest had been originally made and used by Red-rumped Swallows.

らかの変化があった場合には、必要に応じて双眼鏡をもちいて詳しく観察した。巣から落下したスズメのヒナについては、羽毛の生え具合や開眼の有無などの状況(清棲 1952, 谷口 2000)からふ化後の日齢を推定した。あわせて、この調査地の近辺でのムクドリの繁殖状況について、スズメの場合と同様に確認できた行動を記録した。

なお、1999年5月17日には、調査地である4棟のアパート内において、観察していたスズメの巣のある場所を除く他の9室の階段室について、スズメの営巣状況を調査した。コシアカツバメの古巣の入り口から巣材の枯れ草がはみ出している場合は、スズメが営巣場所として利用したものと判断した(環境庁 1997)。

観察結果

1999年4月20日早朝に、ムクドリ成鳥1羽がスズメの巣を襲撃した。スズメ成鳥2羽がけたたましい鳴き声を出して威嚇したが、ムクドリは数分間にわたって泥でできたスズメの巣の入り口部分を広げるように破壊した後(図1)、飛去した。巣からスズメのヒナ5羽が約5m下の階段の踊り場に落下して、うち1羽が死亡した。巣にはスズメのヒナは残っていなかった。落下したスズメのヒナはふ化後12~14日程度で巣立ち間近と推測された。なお、生存していた4羽のスズメのヒナをボール紙箱製の仮設巣に保護し、踊り場に置いたところ、翌日から翌々日にかけてヒナは4羽とも巣立った。

その後、同じ巣でスズメが繁殖をしていたが、1999年5月17日早朝にムクドリ1羽がその巣を再度襲い、巣からヒナ3羽が踊り場に落下して3羽とも死亡した。スズメのヒナは羽毛がまだ生えていなくて、眼が開いていず、ふ化後約2日目と推測された。

5月17日の日中にほかの階段室9室を調査した結果、そのうち5室には、いずれも最上階

である4階の天井下にコシアカツバメの古巣を利用してスズメが営巣した形跡が1か所ずつあり、そのうち2巣はスズメが営巣中であった。また、ほかの1室ではコシアカツバメの造巣中の巣が1か所あった。上記のスズメが営巣中の2巣では、いずれも巣の下の踊り場にスズメのヒナが落下していた。うち1か所ではふ化後約4日目のヒナが4羽落ちていて、まだ生存していた。もう1か所ではふ化後約2日目のヒナが3羽落ちていて、うち1羽はまだ生きていた。いずれの巣も入り口部分が破壊されていたが、巣内にヒナが残っているかどうか不明であった。落下したヒナが生存していたことから、これらの巣も同日中にムクドリによって襲撃されたものと推測された。なお、スズメの営巣の形跡があったものの、スズメが見られなかった巣のうちの一つには、巣の入り口部分を破壊された形跡があったが、破壊された時期については不明であった。

1999年5月25日午前7時に、観察していたスズメの巣の近くに2羽のムクドリが飛来し、スズメの巣の入り口の周囲をホバリングのようにしばらく飛び回ったが、約1分後に飛び去った。ムクドリがスズメの巣の近くを飛んでいる際に、スズメ成鳥2羽がこの巣に入出入りした。また、ムクドリの飛去後、このスズメ2羽が交尾を行なった。その後、6月中旬にこの巣でスズメのヒナが生まれ、6月下旬に巣立ったが、この繁殖の際にはムクドリの襲撃は観察されなかった。

同年には、このスズメの巣のある階段室から約20m離れた別のアパートの屋根の隙間でムクドリが営巣しているのが確認された。このムクドリの巣では5月中旬にヒナの声が聞こえ、ムクドリ親個体の食物運びが観察された。6月上旬にこの巣からムクドリが巣立った。

2001年5月22日早朝、観察していたアパート階段室のスズメの巣の下の踊り場にスズメのふ化後約2日と思われるヒナ1羽が落下して死亡していた。スズメの巣の入り口部分が広げられるように破壊され、ムクドリによって襲撃を受けたものと推測された。その後も巣内にスズメのヒナが残っていて、巣内からヒナの声が聞こえた。

同日の日中、同じアパート内の別のスズメの巣の近くにムクドリ2羽が飛来し、巣の入り口を覗きこもうをするが、巣の持ち主と思われるスズメ2羽が激しく鳴いたり、体当たりしたりする威嚇行動を何度かくり返したところ、ムクドリは飛去した。このムクドリとスズメの同様の行動が、その後、3日間、くり返し観察された。

観察していた巣では2001年6月にスズメが再度繁殖を始めていたが、2001年6月21日午後7時頃、観察していた階段室のスズメの巣の下の踊り場にスズメのふ化後約8日と思われるヒナ1羽が落下していて、巣の入り口部分がさらに破壊されていた。同日午後4時頃にはヒナは見当たらなかったため、午後4時から7時の間にムクドリの襲撃を受けたものと推測された。落下したヒナは22日朝に死亡したが、スズメの巣にヒナが4羽程度残っていて、このヒナは6月26日に巣立ちした。

同年にも、1999年と同じアパートの屋根にムクドリが営巣していて、5月上旬から6月上旬にかけて繁殖した。

なお、1996～1998年と2000年には、同じ巣でスズメの繁殖は観察されたが、ムクドリによ

るスズメの巣への襲撃は確認されなかった。各年ともムクドリは同じアパートの屋根で営巣し、繁殖した。また、上記の観察においてムクドリ、スズメのいずれについても個体識別をしていなかったため、襲撃をしたムクドリ、襲撃を受けたスズメが同一個体であったかどうか、不明である。

考 察

ムクドリがスズメの巣を襲撃する原因は不明であるが、以下の可能性が考えられる。

まず、営巣場所そのものをスズメから奪い取るためという可能性が考えられる。ムクドリは樹洞営巣性であるが、人工建造物の隙間や巣箱などにもよく営巣する（斉藤 1997）。スズメもまた元来は樹洞営巣性と考えられるが、人家の軒下や屋根の隙間などに営巣することが多い（佐野 1997）。ムクドリが営巣するのに適した場所が少ない場合には、同種内で営巣場所の奪い合いが起りやすく、巣箱で営巣しているムクドリのヒナがほかのムクドリによって巣箱外に出されることもある（山口恭弘 私信）。また、ムクドリ用の巣箱にスズメが営巣したときに、スズメがムクドリに追い出されたり（黒田 1957）、スズメのヒナが巣箱外に出されたりすることがある（山口 私信）。

ムクドリの繁殖時期は一般に4月から6月である（斉藤 1997）が、種内托卵が高頻度で起こる（Yamaguchi 1997）。繁殖期の早い時期に営巣場所を確保できなかったフローター（Floater）と呼ばれるムクドリは、早い時期には同種他個体の巣へ托卵すると考えられ、その一部は繁殖が早く始められた巣でヒナが巣立ったあと、利用可能となった営巣場所で遅い時期に繁殖を試みる（Saitou 2001）。

今回観察されたムクドリによるスズメの巣への襲撃は、営巣場所を確保できなかったムクドリによる巣の強奪の試みであった可能性がある。そうだとすると、ムクドリがコシアカツバメの古巣に営巣を試みた事例でもある。ただし、コシアカツバメの古巣の大きさとムクドリの体の大きさを考えると、巣の入り口部分を破壊しても巣の中にムクドリの体を収めるには空間が狭すぎるので、仮にムクドリがスズメから巣の強奪に成功していても、ムクドリが営巣するのは不可能であろう。したがって、ムクドリは巣を襲撃し、スズメの追い出しに成功した場合があったものの、そこを使って繁殖を試みることはなかったと考えられる。また、ムクドリのスズメの巣への襲撃が、巣の強奪が目的であったのなら、近くで営巣していたムクドリは巣の襲撃に関与していなかったと思われる。

別の可能性として、ムクドリによる巣材盗みが考えられる。コシアカツバメの古巣を利用したスズメの巣の入り口からは枯れ草などの巣材がはみ出して見えるので、ムクドリが巣材を奪おうとして、巣の入り口を破壊して、結果としてスズメのヒナが落下するのかも知れない。ただし、ムクドリの巣材となる枯れ草は、この観察地の周囲においては農耕地や路傍などで容易に採集可能と考えられる。また、まれにムクドリはほとんど巣材を使わないで営巣することもある（山口 私信）。これらを考慮すると、巣材盗みの可能性は高くはないと思われる。

ムクドリがスズメの卵もしくはヒナを捕食するためにスズメの巣を襲撃した可能性も否定はできないが、ムクドリの食物として小鳥の卵やヒナは知られていない（小島 1929, 清棲 1952, 黒田 1956, 坂本 1981, 橋口・上田 1990, 齊藤 1997）。また、今回の観察ではスズメのヒナが落下したまま放置されていた。スズメの卵を捕食するためにスズメのヒナをいったん殺し、その後のスズメの産卵時期に再度襲いに来るということも考えられるが、卵捕食者として記録されていないムクドリがこのような高度な採食戦術をとるとは考えにくい。したがって、スズメの卵やヒナを捕食するのが目的であるという可能性はきわめて低いと考えられる。

これらの点を考慮すると、ムクドリのスズメの巣への襲撃は、営巣場所の強奪が目的であった可能性が高い。1999年5月17日には、観察中の巣も含めてこの調査地で繁殖していた3つのスズメの巣すべてがムクドリに襲撃された。これは、営巣場所を求めるムクドリがスズメの巣を襲撃して巣を奪ったものの、空間が狭すぎて自らの営巣場所として利用することができず、その結果、新たな営巣場所を求めて別のスズメの巣を襲うということのくり返しが行なわれたのかも知れない。

謝 辞

農業技術研究機構中央農業総合研究センターの山口恭弘博士にはムクドリの繁殖生態について詳しくご教示いただき、文献を紹介いただくとともに、ムクドリの襲撃の原因についてご助言を賜った。深く感謝申し上げます。

引用文献

- 橋口大介・上田恵介. 1990. 果実食者としてのムクドリ —“ペリット”分析の有効性—. *Strix* 9: 55-61.
- 石原保. 1982. 四国の野鳥誌. 築地書館, 東京.
- 石川和男・大野正・澤田佳長・柴折史昭・曾良寛武・森川國康・山本正幸. 1995. 四国の野鳥. 高知新聞社, 高知市.
- 環境庁. 1997. '97身近な生き物調査 ○調査の手引き○. 環境庁, 東京.
- 清棲幸保. 1952. 日本鳥類大図鑑I. 講談社, 東京.
- 小島俊文. 1929. ムクドリの食性. *応用動物* 1: 40-42.
- 黒田長久. 1956. ムクドリの調査 第2報 蕃殖(1). *山階鳥研報* 9: 375-386.
- 黒田長久. 1957. ムクドリの調査 第2報 蕃殖(2). *山階鳥研報* 10: 413-426.
- 齊藤隆史. 1997. ムクドリ. 樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 (編). *日本動物大百科* 4 鳥類II. pp. 162-163. 平凡社, 東京.
- Saitou, T. 2001. Floaters as intraspecific brood parasites in the Grey Starling *Sturnus cineraceus*. *Ecol. Res.* 16: 221-231.
- 坂本堅五. 1981. 果樹への鳥害に関する調査 特にムクドリによるナシの被害を中心として. *応用*

鳥学集報 2: 53-57.

佐野昌男. 1997. ハタオリドリ科 (スズメ類). 樋口広芳・森岡弘之・山岸哲 (編). 日本動物大百科 4 鳥類 II. pp. 158-160. 平凡社, 東京.

谷口高司. 2000. わかるかな? 幼鳥図鑑. 野鳥 65(6): 4-5.

Yamaguchi, Y. 1997. Intraspecific nest parasitism and anti-parasite behavior in the Grey Starling, *Sturnus cineraceus*. J. Ethol. 15: 61-68.

Attacks on Tree Sparrow nests by Grey Starlings

Shigeho Sato¹ & Yukari Sato²

1. Forestry and Forest Products Research Institute, 2-915 Asakura-nishimachi, Kochi 780-8077, Japan
2. 148-2-1-42 Asakura-hei, Kochi 780-8063, Japan

We observed Grey Starlings *Sturnus cineraceus* attacking Tree Sparrow *Passer montanus* nests several times in Kochi City, southwestern Japan. The nests of the Tree Sparrows, which had been made beneath the eaves of an apartment house, originally by Red-rumped Swallows *Hirundo daurica*, were partly destroyed by the Grey Starlings. Nestlings of Tree Sparrows killed by the starlings had fallen from the nests. The cause of the attacks is discussed and the possibility that Grey Starlings tried robbing the nesting sites is considered.

Key words: attacks on nests, Grey Starling, nesting site, Tree Sparrow